

本書の構成

本書をお読みにする前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

第2章 ハードウェア

本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

第3章 増設

本ワークステーションに取り付け可能な周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

第4章 BIOS

BIOS セットアップについて説明しています。また、本ワークステーションのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

第5章 技術情報

本ワークステーションの仕様などを記載しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	5
第1章 各部名称	
1 各部の名称と働き	10
ワークステーション本体前面	10
ワークステーション本体背面	12
ワークステーション本体内部	14
マザーボード	15
第2章 ハードウェア	
1 マウスについて	18
マウスの使い方	18
2 キーボードについて	20
3 CD について	22
取り扱い上の注意	22
CD をセットする／取り出す	23
4 フロッピーディスクについて	25
取り扱い上の注意	25
フロッピーディスクをセットする／取り出す	25
5 ハードディスクについて	27
注意事項	27
6 ハードウェアのお手入れ	28
ワークステーション本体のお手入れ	28
マウスのお手入れ	28
キーボードのお手入れ	29
フロッピーディスクドライブのお手入れ	29
7 筐体のセキュリティ	31
施錠の方法	31
第3章 増設	
1 周辺機器を取り付ける前に	34
取り扱い上の注意	34
2 本体カバーを取り外す	36
本体カバーの取り外し方	36
3 メモリを取り付ける	37
メモリの取り付け場所	38
取り付けられるメモリ	38

CD-ROM ドライブ／グラフィックスカードを取り外す	38
メモリを取り付ける	42
4 拡張カードを取り付ける	43
拡張カードを取り付ける	44

第 4 章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	50
2 操作方法	51
CMOS Setup ユーティリティを起動する	51
設定値を変更する	52
各キーの役割	52
CMOS Setup ユーティリティを終了する	53
Boot Menu を使用する	53
3 メニュー詳細	54
Product Information メニュー	54
Standard CMOS Features メニュー	55
Advanced BIOS Features メニュー	58
Advanced Chipset Features メニュー	61
Integrated Peripherals メニュー	62
Power Management Setup メニュー	66
PnP/PCI Configurations メニュー	70
Frequency Control メニュー	72
Load Default Settings	72
Set Supervisor Password	72
Set User Password	72
Save & Exit Setup	73
Exit Without Saving	73
4 BIOS のパスワード機能を使う	74
パスワードの種類	74
パスワードを設定する	74
パスワードを変更／削除する	76
パスワードを忘れてしまったときには	77

第 5 章 技術情報

1 仕様一覧	80
本体仕様	80
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	81
LAN 機能	81
表示機能	82
2 コネクタ仕様	83

索引	87
-----------------	-----------


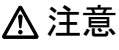
Memo

本書をお読みになる前に




本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

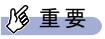

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。
[CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS の表記

本文中の BIOS 設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「Advanced BIOS Features」の「Silent Boot」の項目を「Enabled」に設定します。

↓

「Advanced BIOS Features」- 「Silent Boot」: Enabled

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2002 年 6 月現在のものです。変更されている場合は、弊社担当営業員または担当保守員へお問い合わせください。

■ カスタムメイドオプション

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP	Windows ※
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	Windows NT	
Norton AntiVirus™ 2002	AntiVirus	
VERITAS RecordNow DX 4.0	RecordNow	
Adobe® Acrobat® Reader 5.0	Acrobat Reader	

※：Windows XP/2000/NT のように併記する場合があります。

■ 機種名表記

本文中では、次のように表記します。

なお、本書ではお使いの機種以外の情報もありますが、ご了承ください。

機種名	本文中の表記	
CELSIUS330	CELSIUS330	本ワークステーション/ ワークステーション本体
CELSIUS340	CELSIUS340	その他のワークステーション
CELSIUS670	CELSIUS670	

※：CELSIUS330/340/670 のように併記する場合があります。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel、Pentium は、米国インテル社の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2002
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第 1 章

各部名称

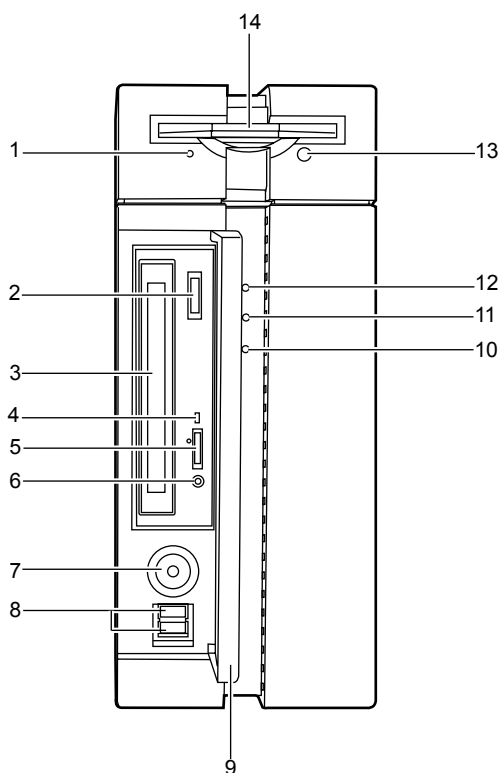
各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	10
------------------	----

1 各部の名称と働き

ここでは、ワークステーション本体、マザーボードの各部の名称と働きを説明します。

ワークステーション本体前面



1 フロッピーディスクアクセスランプ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりしているときに点灯します。

2 CD 取り出しボタン

CD (CD-ROM や音楽 CD) をセットするときや、取り出すときに押します。
CD アクセスランプが点灯しているときは押さないでください。

3 CD-ROM ドライブ


CD のデータやプログラムを読み出します。

4 CD アクセスランプ

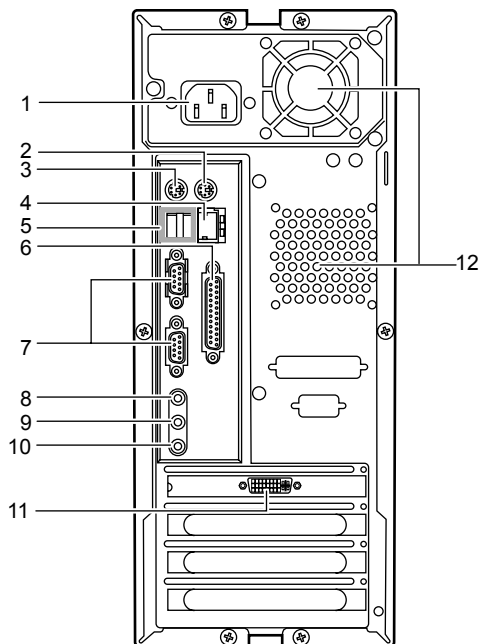
CD からデータを読み込んでいるときに点灯します。

5 ヘッドホンボリューム (音楽 CD のみ)

ヘッドホンを接続したときに、ヘッドホンの音量を調整します。

- 6 ヘッドホン端子（音楽 CD のみ）**
市販のヘッドホンで音楽 CD を聴くときに、ヘッドホンを接続します。
- 7 電源ボタン**
ワークステーション本体の電源を入れるときや、OS の設定によりスタンバイ状態（省電力状態）にするととき、またはスタンバイ状態から復帰させるときに押します。
- 8 USB コネクタ（)**
USB 規格（1.1）の周辺装置を接続します。
- 9 フロントパネル**
電源ボタンや CD-ROM、USB コネクタを使用する場合に開きます。
- 10 リセットスイッチ**
メモリ内のデータ消去、OS などのソフトウェアの再読み込み、および各種オプションカード、ハードディスクドライブなどの周辺機器を初期化するときに押します。
リセットスイッチを押すときは、クリップを伸ばしたもので 1 秒間押します。
- POINT**
- ▶ 何らかの原因によって、本ワークステーションが停止し、OS 上からリセットできない場合は、上記の方法でリセットを行ってください。
また、本ワークステーションが停止しても、むやみに電源を切らないでください。
ハードディスク故障の原因となることがあります。
- 11 ディスクアクセスランプ**
ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み出したりしているときに点灯します。
- 12 電源ランプ**
ワークステーション本体に電源が入っていないときは消灯しています。
ワークステーション本体に電源が入っているときは緑色に点灯します。
スタンバイ状態のときはオレンジ色に点灯します。
- 13 フロッピーディスク取り出しボタン**
フロッピーディスクを取り出すときに押します。
フロッピーディスクアクセスランプが点灯しているときは押さないでください。
- 14 フロッピーディスクドライブ**
フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりします。

ワークステーション本体背面



1 インレット

ワークステーション本体の電源ケーブルを接続します。

2 マウスコネクタ ()

マウスのケーブルを接続します。

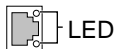
3 キーボードコネクタ ()

キーボードのケーブルを接続します。

4 LAN コネクタ (LAN)

非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続します。

100Mbps で使用するには、カテゴリ 5 のケーブルが必要です。



LED の意味は、以下のとおりです。

下部 LED 点灯：100Mbps で LINK を確立中

上部 LED 点灯：LINK を確立中

上部 LED 点滅：データを転送中

5 USB コネクタ ()

USB 規格 (1.1) の周辺装置を接続します。

6 パラレルコネクタ ()

プリンタのケーブルを接続します。

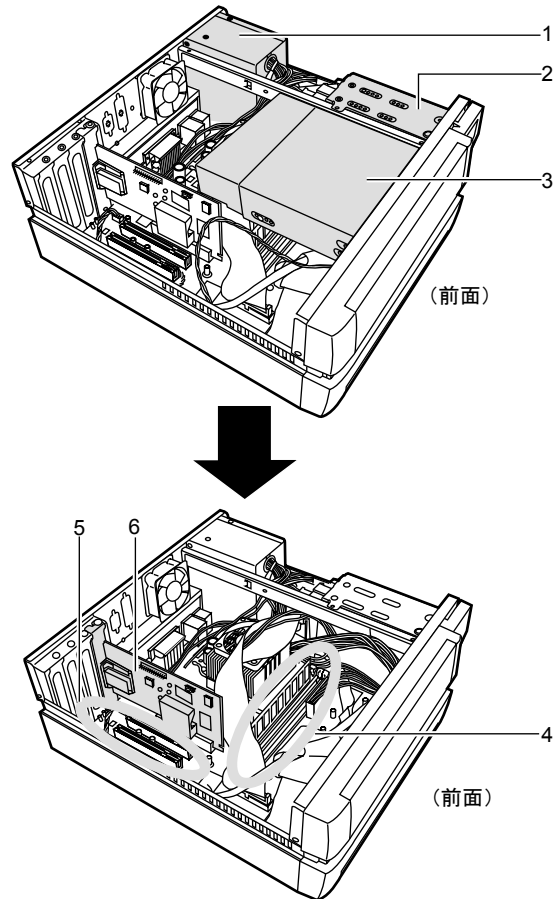
7 シリアルコネクタ ()

モデムなど RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

上から 1～2 と並んでいます。

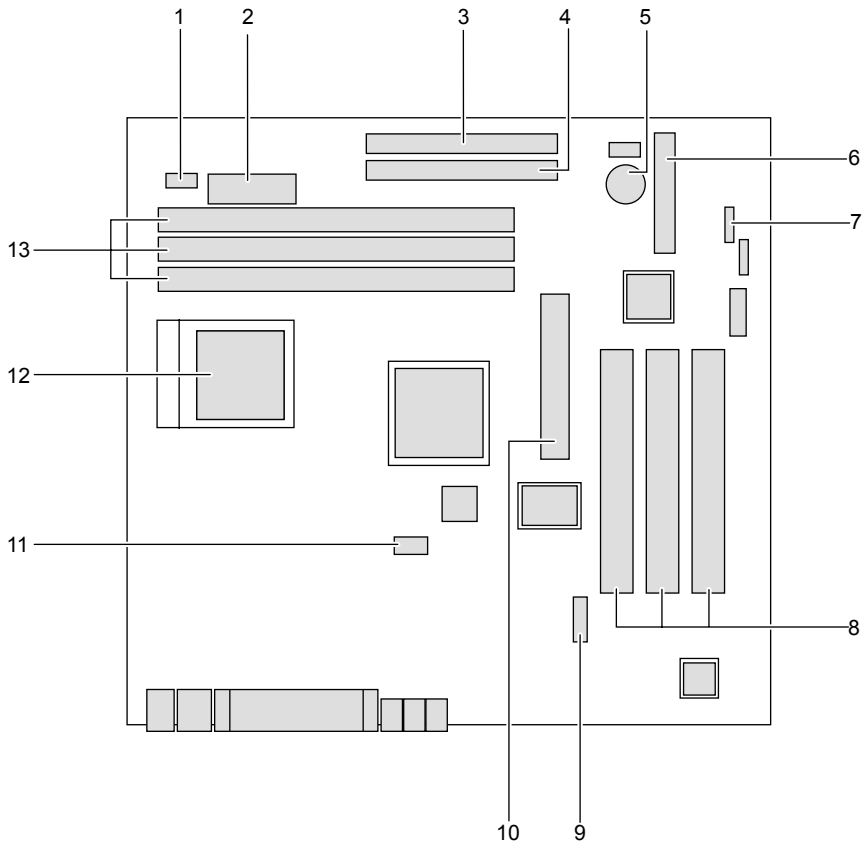
- 8 ラインアウト端子** (🔊)
- オーディオ機器の入力端子を接続します。
スピーカーを直接接続する場合は、アンプ内蔵のものをお使いください。
- 9 ラインイン端子** (🔊)
- オーディオ機器の出力端子を接続します。
- 10 マイク端子** (🎤)
- 市販のコンデンサマイクを接続します。
- 11 DVI-I コネクタ**
- DVI-VGA変換ケーブルまたはデジタルディスプレイのディスプレイケーブルを接続します。カスタムメイドオプションで CELSIUS FireGL 8800 または CELSIUS Quadro4 900XGL を選択している場合、コネクタの種類が異なります。
- 12 通風孔 (冷却ファン)**
- ワークステーション本体内部の熱を外部に逃すための開孔部です。

ワークステーション本体内部



- 1 電源ユニット**
- 2 3.5 インチファイルベイ**
上にフロッピーディスクドライブ、下に内蔵ハードディスクユニットが取り付けられています。
- 3 5 インチファイルベイ**
CD-ROM ドライブが取り付けられています。
- 4 メモリスロット**
メモリを3枚まで搭載することができます。
- 5 拡張スロット**
拡張カードを取り付けます。
PCI カードを取り付けることができます。
- 6 グラフィックスカード**

マザーボード



1 CPU ファンコネクタ

2 電源コネクタ

3 プライマリ IDE コネクタ

プライマリ IDE 用のケーブルを接続します。

4 セカンダリ IDE コネクタ

セカンダリ IDE 用のケーブルを接続します。

5 内蔵バッテリー

本ワークステーションの時計機能と BIOS で設定した各設定を保存するためのバッテリーです。

6 フロッピーコネクタ

フロッピーディスクドライブのケーブルを接続します。

7 ジャンプスイッチ (JP14)

パスワードを消去するときに、ジャンプセッティングを行います (→ P.77)。

8 PCI スロット

PCI カードを取り付けます。図中左から 1～3 と並んでいます。

9 CD-IN コネクタ

CD-ROM ドライブのオーディオケーブルを接続します。

10 AGP スロット

グラフィックスカードを取り付けます。

11 システムファンコネクタ

12 CPU

CPU ファンの下にあります。

13 メモリスロット

メモリモジュールを取り付けます。図中下から1～3と並んでいます。

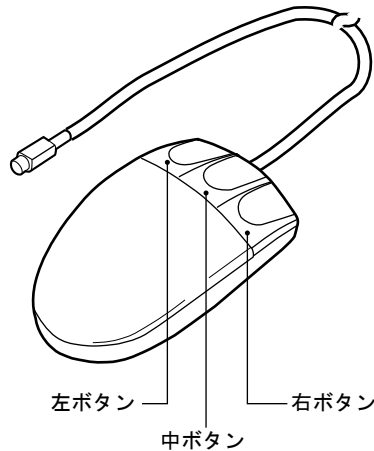
第2章

ハードウェア

本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1	マウスについて	18
2	キーボードについて	20
3	CDについて	22
4	フロッピーディスクについて	25
5	ハードディスクについて	27
6	ハードウェアのお手入れ	28
7	筐体のセキュリティ	31

1 マウスについて



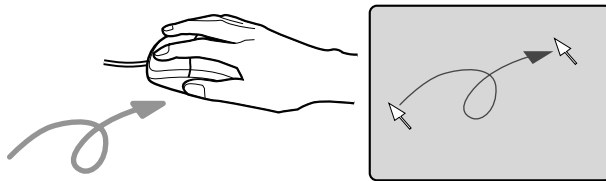
POINT

▶ マウスは、定期的なクリーニングを行ってください（→ P.28）。

マウスの使い方

■ マウスの動かし方

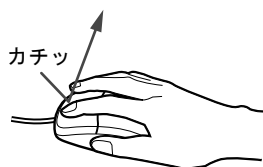
マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

● クリック

マウスの左ボタンを1回カチッと押します。
また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。



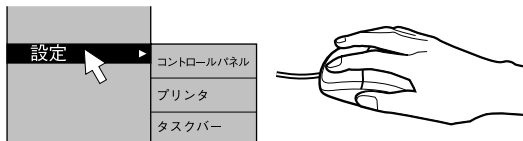
- **ダブルクリック**

マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。



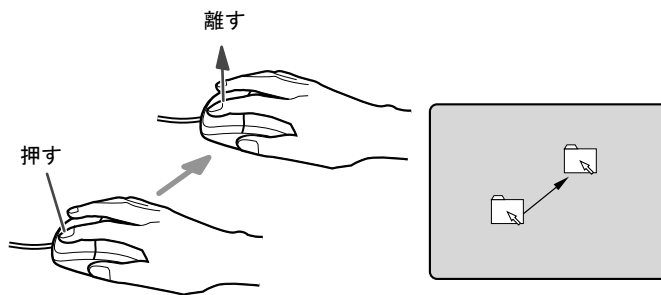
- **ポイント**

マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合(メニューの右端に▶が表示されています)、そのメニューが表示されます。



- **ドラッグ**

マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。



POINT

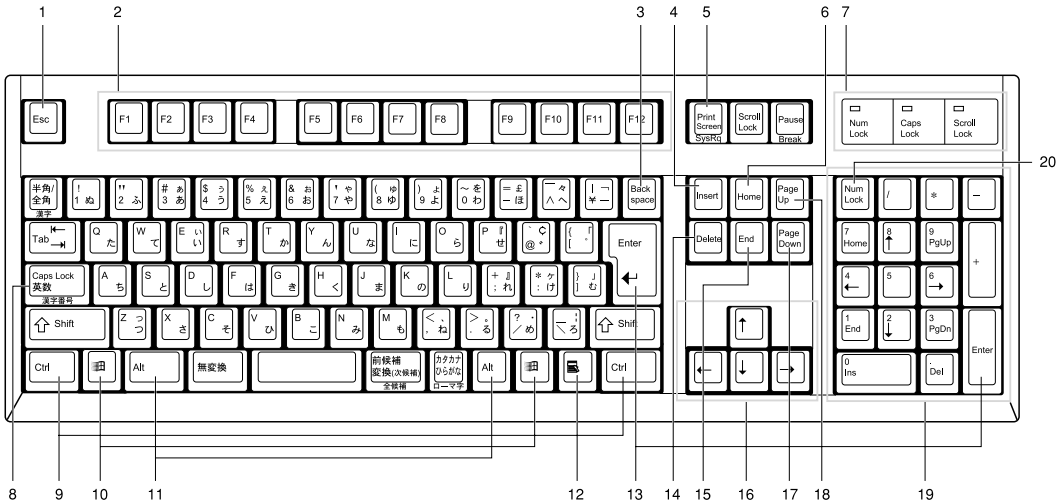
- ▶ 上記のボタン操作は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで右利き用(主な機能に左側のボタンを使用)に設定した場合の操作です。
- ▶ 中ボタンは、対応アプリケーションで使用します。

2 キーボードについて

キーボード（109日本語キーボード）のキーの役割を説明します。

POINT

- ▶ お使いになる OS やアプリケーションにより、キーの役割が変わることがあります。OS やアプリケーションのマニュアルをご覧ください。



1 Esc キー

アプリケーションの実行中の動作を取り消します。

2 F キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

3 Back space キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

4 Insert キー

文字の挿入／上書きの切り替えをするときに押します。

5 Print Screen キー

画面表示をクリップボードに取り込みます。

6 Home キー

カーソルを行の最初に一度に移動するときに押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に一度に移動します。

7 インジケータ

【Num Lock】キー、【Shift】+【Caps Lock 英数】キー、【Scroll Lock】キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

8 Caps Lock 英数キー

アルファベットを入力するときに使います。

【Shift】+【Caps Lock 英数】キーで大文字／小文字を切り替えます。

9 Ctrl キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

10 Windows キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

11 Alt キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

12 Application キー

マウスの右クリックと同じ役割をします。

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。

13 Enter キー

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

文を改行したり、コマンドを実行したりします。

14 Delete キー

文字を削除するときに押します。また、【Ctrl】キーと【Alt】キーと一緒に押すと、本ワークステーションをリセットできます。

15 End キー

カーソルを行の最後に一度に移動するときに押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に一度に移動します。

16 カーソルキー

カーソルを移動します。

17 Page Down キー

次の画面に切り替えるときに押します。

18 Page Up キー

前の画面に切り替えるときに押します。

19 テンキー

「Num Lock」インジケータ点灯時に数字が入力できます。

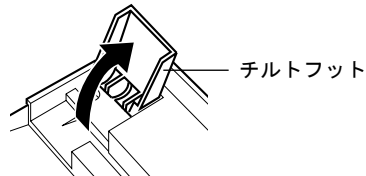
「Num Lock」インジケータ消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

20 Num Lock キー

テンキーの機能を切り替えるときに押します。

POINT

- ▶ キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



3 CD について

CD（CD-ROM や音楽 CD）の取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、CD をお使いになるときは、次の点に注意してください。

■ CD 媒体の注意事項

- CDは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

■ ドライブの注意事項

- 「CD 媒体の注意事項」が守られていない CD、ゆがんだ CD、割れた CD、ヒビの入った CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。上記の CD をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 本ワークステーションは、円形の CD のみお使いになれます。円形以外の異形 CD は、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形 CD をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをお使いにならないでください。
- 一部のコピー防止機能が付いた音楽 CD については、ご利用いただけない場合があります。

POINT

- ▶ CD-ROM は、音楽用 CD（コンパクトディスク）に、音の代わりにさまざまな情報（文字など）を保存したものです。ROM とは、「Read Only Memory」の略で、読み取り専用という意味です。本ワークステーションでは、CD-ROM の情報を読み取ることはできますが、書き込むことはできません（カスタムメイドで CD-R/RW を選択した場合を除く）。
- ▶ 本ワークステーションでは、次図のマークがついた CD のみお使いになれます。マークのない CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。また、マークの種類によっては、アプリケーションが必要になる場合があります。

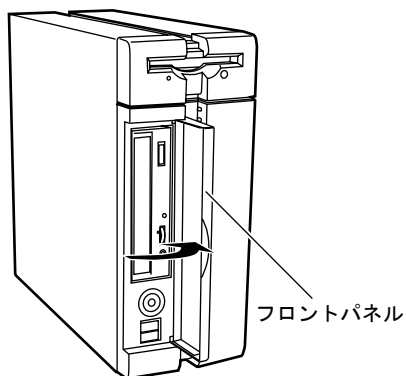


※1：CD-R/RW ドライブをお使いの場合に、書き込みができます。

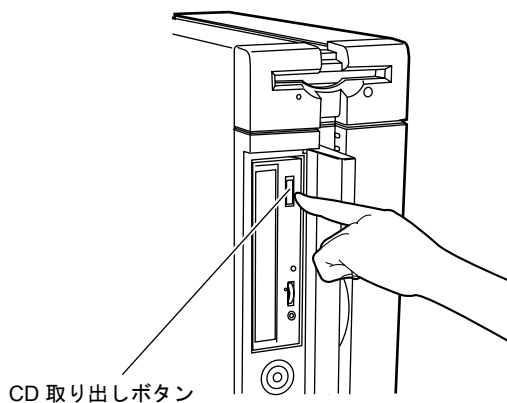
CDをセットする／取り出す

■ CDをセットする

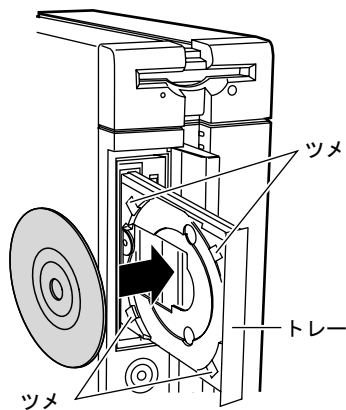
- 1** フロントパネルを開きます。



- 2** CD取り出しボタンを押します。
CDをセットするトレイが出てきます。

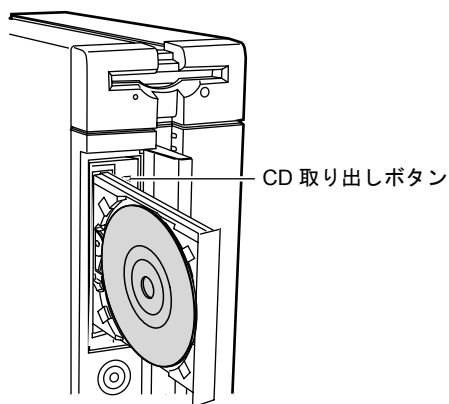


- 3** CDのレーベル面を左にして、トレイの中央に置きます。
CDの落下を防止するためのツメ（4ヶ所）で固定します。



4 CD 取り出しボタンを押します。

トレイがワークステーション本体に入り、CD がセットされます。



POINT

- ▶ CD をセットすると、CD アクセスランプが点灯します。CD アクセスランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。
- ▶ トレーがワークステーション本体に入るときに、フロントパネルにぶつからないように注意してください。
- ▶ カスタムメイドオプションでCD-R/RWドライブを選択している場合、CD-RまたはCD-RW媒体への書き込みをするときは、フロントパネルを開いたまま行ってください。書き込み終了後、自動的にトレイが出てきます。
- ▶ 再起動時には、自動的にトレイは入りません。CD 取り出しボタンを押して手でトレイを入れる必要があります。

■ CD を取り出す

CD の取り出しは、CD アクセスランプが消えるのを確認してから、CD 取り出しボタンを押して行ってください。

POINT

- ▶ CD の取り出しは、必ずフロントパネルを開いて行ってください。特に OS 上から取り出しを行う場合はご注意ください。フロントパネルを破損するおそれがあります。

4 フロッピーディスクについて

フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、フロッピーディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

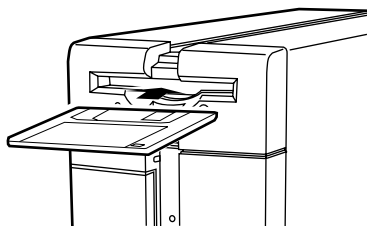
フロッピーディスクをセットする／取り出す

POINT

- ▶ DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクをお使いください。その他のフロッピーディスクをお使いになると、動作が保証されません。

■ フロッピーディスクをセットする

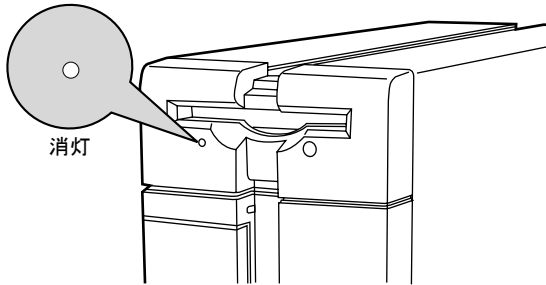
- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。
「カシャッ」と音がして、フロッピーディスクがセットされます。



■ フロッピーディスクを取り出す

- 1 フロッピーディスクアクセスランプが消えていることを確認します。

フロッピーディスク
アクセスランプ

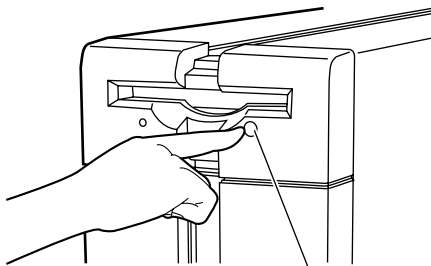


POINT

- ▶ フロッピーディスクアクセスランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。
データが破壊される可能性があります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが出てきます。



フロッピーディスク
取り出しボタン

5 ハードディスクについて

ハードディスクの取り扱いについて、気をつけていただきたいことを説明します。

注意事項

故障の原因となりますので、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態でもワークステーションを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所でのご使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所でのご使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所でのご使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでのご使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

POINT

- ▶ 取り扱い方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

6 ハードウェアのお手入れ

ワークステーション本体のお手入れ

⚠ 警告



- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。

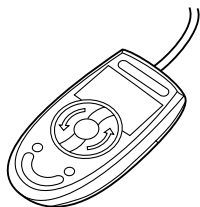
- 柔らかい布でから拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、ワークステーション本体に水が入らないようにご注意ください。
- 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などをご使用にならないでください。ワークステーション本体を損傷する原因となります。
- 通風孔にほこりがたまらないように、掃除機でほこりを吸引するなど、定期的に清掃してください。

マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

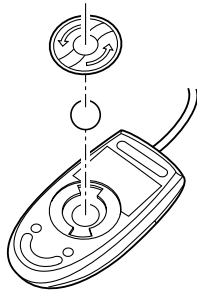
1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



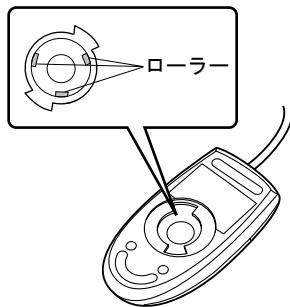
2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。

**3** マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、および裏ボタンは、水に浸して固くしぼった布で拭きます。

ローラーは、綿棒で拭きます。

**4** ボールと裏ボタンを取り付けます。

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

キーボードのお手入れ

柔らかい布でから拭きます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サプライ品）のクリーニングフロッピーで、3ヶ月に1回程度クリーニングしてください。

- サプライ品

クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号：0212116

（富士通ワーク取り扱い品：☎03-3342-5375）

- 1** クリーニングフロッピーをセットします。
- 2** コマンドプロンプトから、dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。
例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。
dir a:
- 3** フロッピーディスクアクセスランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。

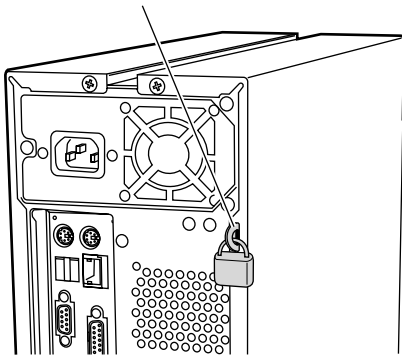
7 筐体のセキュリティ

本ワークステーション内部の装置（ハードディスクやCPUなど）を盗難から守るため、本ワークステーションのカバーに施錠することができます。

施錠の方法

セキュリティキー取り付け部にお手持ちの鍵を取り付けます。

セキュリティキー取り付け部



Memo

第3章 増設

3

本ワークステーションに取り付け可能な周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

- | | |
|----------------------|----|
| 1 周辺機器を取り付ける前に | 34 |
| 2 本体カバーを取り外す | 36 |
| 3 メモリを取り付ける | 37 |
| 4 拡張カードを取り付ける | 43 |

1 周辺機器を取り付ける前に

本ワークステーションは、さまざまな周辺機器を接続または内蔵して、機能を拡張できます。

⚠ 警告



感電

- 周辺機器を接続する場合には、弊社推奨品以外の機器は接続しないでください。感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 警告



けが

- 周辺機器類の取り付け、取り外しを行う際は、マニュアルに指定された場所以外のネジは、外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがををするおそれがあり、また、故障の原因となることがあります。



故障

- ケابل類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態でお使いになると、本ワークステーションおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器の中には、お使いになれないものがあります
ご購入の前に『CELSIUS シリーズシステム構成図』をご覧になり、その周辺機器が使えるかどうかを確認してください。
- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします
純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、ワークステーションが故障しても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない機器については、本ワークステーションに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけに
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われずおそれがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了してから、別の周辺機器を取り付けてください。
- ワークステーションおよび接続されている機器の電源を切る
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ワークステーションの電源を切った状態でも、ワークステーション本体内部には電流が流れています。
- 電源を切った直後は作業をしない
電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後 10分ほど待ってから作業を始めてください。

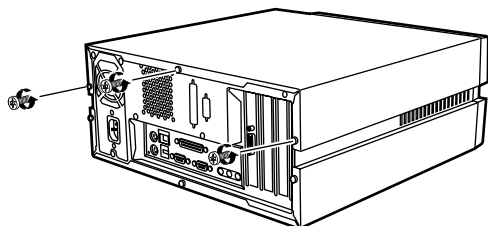
- **電源ユニットは分解しない**
電源ユニットは、ワークステーション本体内部の背面側にある箱形の部品です（「各部名称」－「ワークステーション本体内部」（→ P.14））。
- **柔らかい布の上などで作業してください**
固いものの上に直接置いて作業すると、ワークステーション本体に傷が付くおそれがあります。
- **内部のケーブル類や装置の扱いに注意**
傷つけたり、加工したりしないでください。
- **静電気に注意**
内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。
- **基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れない**
金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。
- **周辺機器の電源について**
周辺機器の電源はワークステーション本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、ワークステーション本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- **ACPIに対応した周辺機器をお使いください**
本ワークステーションは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）に対応しています。ACPI対応のOSで周辺機器をお使いになる場合、周辺機器がACPIに対応しているか周辺機器の製造元にお問い合わせください。ACPIに対応していない周辺機器を使うと、正常に動作しないおそれがあります。
- **ドライバーを用意する**
周辺機器の取り付けや取り外しには、プラスのドライバーが必要です。
ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 本体カバーを取り外す

本体カバーの取り外し方

周辺機器を取り付けるときは、サイドカバーを取り外して、内部が見える状態にします。

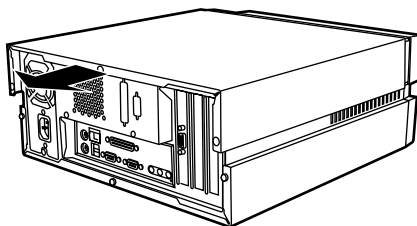
- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 コネクタ部を下にして、ワークステーション本体を横にします。
- 3 サイドカバーの3ヶ所のネジを取り外します。



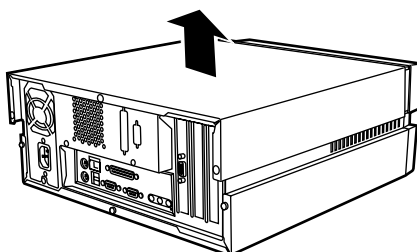
POINT

- ▶ 取り外したネジはワークステーション本体の上に置かないでください。本体の隙間から、ネジが本体内部に落下するおそれがあります。

- 4 サイドカバーを矢印方向に引きます。



- 5 サイドカバーを上を持ち上げて、ワークステーション本体から取り外します。



POINT

- ▶ 取り付けは、取り外す手順を参照して行ってください。

3 メモリを取り付ける

本ワークステーションのメモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、ワークステーションの処理能力があがります。

POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップを行ってから、一度電源を切った後に取り付けを行ってください（→『取扱説明書』）。
- ▶ 搭載可能なメモリは、『CELSIUS シリーズシステム構成図』で確認してください。

警告



感電

- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。



感電

- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となります。



高温

- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を行ってください。火傷の原因となります。

注意



けが

- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジを外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが

- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



故障

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

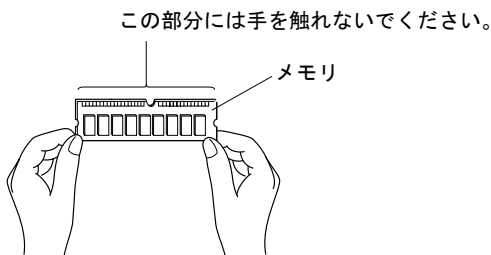


故障

- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。

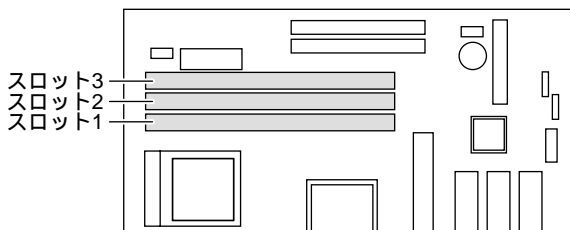


- メモリは次図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。



メモリの取り付け場所

メモリは、ワークステーション内部のメモリスロットに1～3の順番で取り付けてください。スロット3にメモリが入っているのにスロット2やスロット1にメモリが入っていないという状態がないようにしてください。



取り付けられるメモリ

メモリスロットには、128MB/256MB/512MBのSDRAMメモリモジュールを取り付けることができます。メモリは最大1.5GBまで取り付けられます。

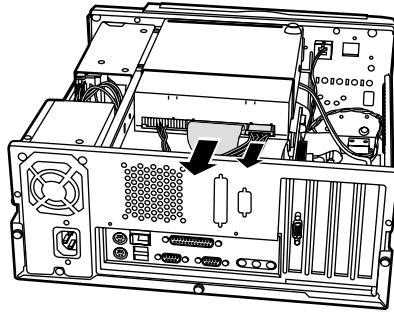
CD-ROMドライブ／グラフィックスカードを取り外す

メモリを取り外したり取り付けたりする前に、CD-ROMドライブとグラフィックスカードを取り外す必要があります。

■ CD-ROMドライブを取り外す

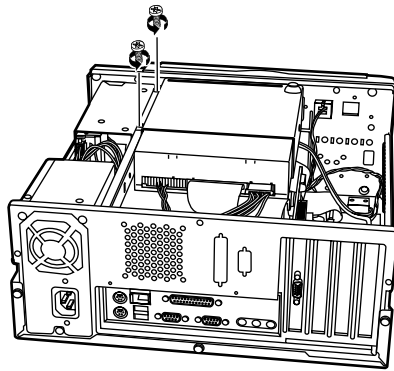
- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 コネクタ部を下にして、ワークステーション本体を横にします。
- 3 サイドカバーを取り外します（→ P.36）。

- 4** CD-ROMドライブに接続されている信号ケーブル、オーディオケーブルおよび電源コネクタを取り外します。

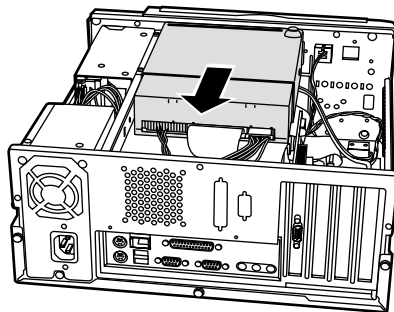


- 5** オーディオケーブルを固定しているバンドを外します。

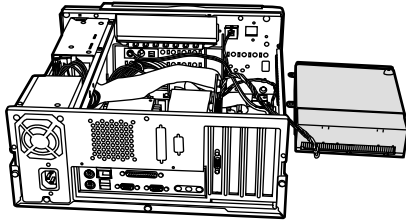
- 6** CD-ROMドライブが取り付けられているファイルベイの2ヶ所のネジを取り外します。



- 7** ファイルベイを矢印方向に引きます。

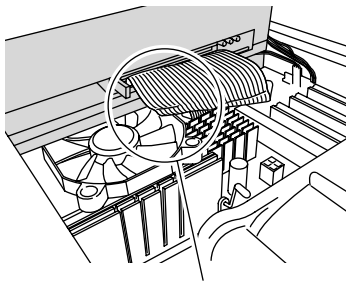


8 ファイルベイをワークステーション本体の脇に置きます。



POINT

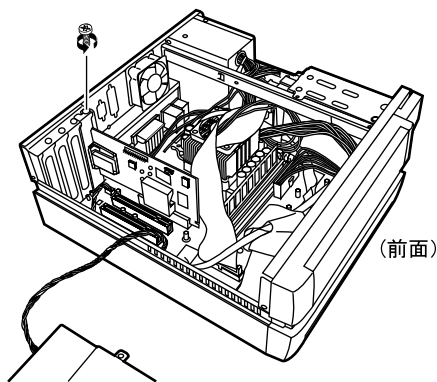
- ▶ 取り付けは、取り外す手順を参照して行ってください。
CD-ROM ドライブを取り付けたあとは、必ず CD-ROM ドライブに接続されているケーブルが CPU ファンに当たっていないか確認してください。CPU を破損するおそれがあります。



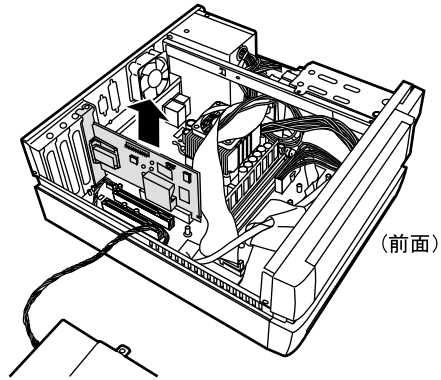
ケーブルと CPU ファンが当たっていないことを確認してください

■ グラフィックカードを取り外す

- 1** グラフィックカードを固定している 1ヶ所のネジを取り外します。



2 グラフィックスカードを引いて、取り外します。

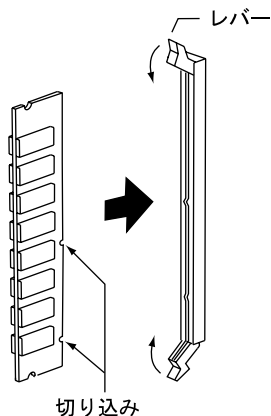


POINT

- ▶ 取り付けは、取り外す手順を参照して行ってください。

メモリを取り付ける

- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 コネクタ部を下にして、ワークステーション本体を横にします。
- 3 サイドカバーを取り外します（→ P.36）。
- 4 CD-ROM ドライブとグラフィックスカードを取り外します（→ P.38）。
- 5 取り付けるスロットの両側のレバーを外側に開きます。
- 6 メモリをスロットに垂直に差し込みます。
メモリの切り欠け部分とスロットの切り欠け部分を合わせるようにして、スロットに垂直に差し込みます。
正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが起きます。このとき、フックがメモリをしっかり固定しているか確認してください。



POINT

- ▶ グラフィックスカードにレバーがぶつからないように、メモリモジュールを正しく固定してください。

- 7 グラフィックスカードと CD-ROM ドライブを取り付けます。
- 8 サイドカバーを取り付けます。

POINT

- ▶ 取り外しは、取り付ける手順を参照して行ってください。
取り外したメモリは、大切に保管しておいてください。

4 拡張カードを取り付ける

拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。

POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、Windows のセットアップを行ってから、一度電源を切った後に取り付けを行ってください（→『取扱説明書』）。
- ▶ 搭載可能な拡張カードは、『CELSIUS シリーズシステム構成図』で確認してください。なお、LAN カードは増設できません。

警告



感電

- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。



感電

- 拡張カードを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となることがあります。



高温

- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を行ってください。火傷の原因となります。

注意



けが

- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが

- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- マザーボードのワークステーション本体背面側の金具には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

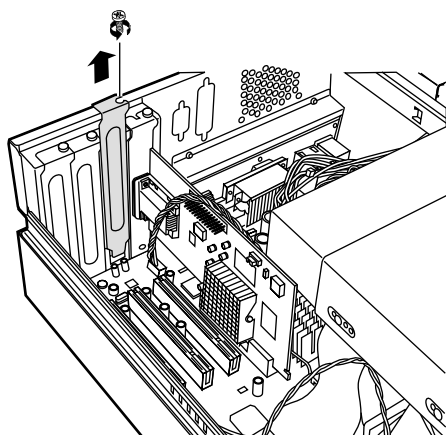


故障

- 拡張カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。拡張カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

拡張カードを取り付ける

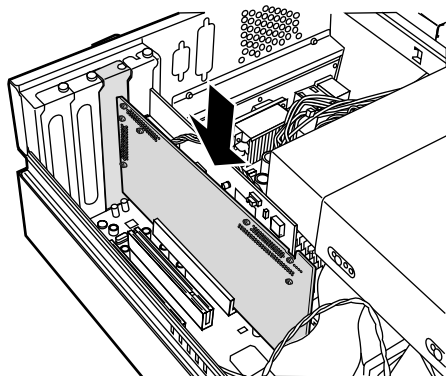
- 1** ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2** コネクタ部を下にして、ワークステーション本体を横にします。
- 3** サイドカバーを取り外します（→ P.36）。
- 4** スロットからスロットカバーを取り外します。
ネジ（1ヶ所）を外し、スロットカバーを取り外します。



POINT

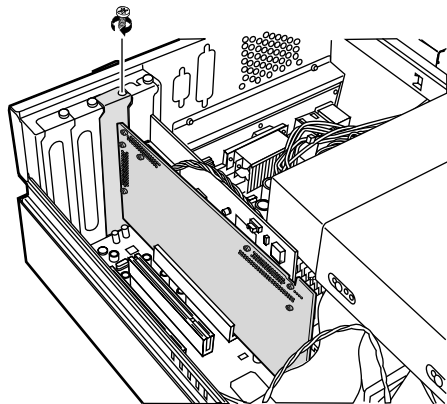
- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
拡張カードを取り外して使う際、ワークステーション内部にゴミが入らないよう取り付けます。

- 5** 拡張カードをスロットに差し込みます。
拡張カードをコネクタにしっかりと差し込みます。



6 ネジで固定します。

手順3で取り外したネジ（1ヶ所）で拡張カードを固定します。

**7** サイドカバーを取り付けます。**8** 本ワークステーションの電源を入れます。

必要に応じて、拡張カードのデバイスドライバをインストールします。デバイスドライバをインストールして設定すると、拡張カードを使用できるようになります。

POINT

- ▶ 取り外しは、取り付けの手順を参照して行ってください。

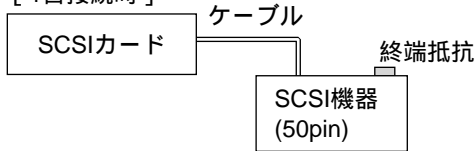
重要

- ▶ SCSI カード（CLESC22）をお使いの場合、次のことに注意してください。
 - ・ 本カードに外付け SCSI 装置を接続する場合は 2 台までしか接続できません。外付け SCSI 装置を 3 台以上接続する場合は複数の SCSI カードに分けて接続してください。なお、外付け SCSI 装置を接続する場合に使用するケーブルは接続装置によって異なります。以下に示すものを使用してください。
 - 68pin(Wide)SCSI 装置を接続する場合
68pin(Wide)SCSI 装置を接続される場合、SCSI 装置に添付の SCSI ケーブル及び終端抵抗を使用して接続してください。
この場合、50pin(Narrow)SCSI 装置は接続できません。



- 50pin(Narrow)SCSI 装置を接続する場合
50pin(Narrow)SCSI はコネクタの形状として、フルピッチとハーフピッチの2種類があります。接続される場合、以下に示すものを選択してください。

[1台接続時]



ケーブル	SCSI 装置	終端抵抗
GP5-832	フル	FMV-692
GP5-833	ハーフ	FMV-695

[2台接続時]



ケーブル 1	SCSI 機器 1	ケーブル 2	SCSI 機器 2	終端抵抗
GP5-832	フル	FMB-CBL831	フル	FMV-692
		FMS-834	ハーフ	FMV-695
GP5-833	ハーフ	FMS-834	フル	FMV-692
		FMV-CBL32	ハーフ	FMV-695

- ・ 本カードに添付のマニュアル（ユーザーズガイド／インストールガイド）は本カードの全体に対し記している汎用のマニュアルです。CELSIUS ワークステーションとしてのサポート範囲を越えた記述がありますので、参考としてお読みください。
- ・ 本カードは「Adaptec SCSI Select Utility」にて SCSI 設定の変更が可能です。「Adaptec SCSI Select Utility」の詳細につきましては本カードに添付されております「ユーザーズ・ガイド」を参照してください。
- ・ 本カードが複数枚搭載されている場合は、設定を変更したいカードを選択する必要があります。SCSI Select ユーティリティ起動時の選択メニューで PCI スロットの搭載位置を確認できます。
以下に選択メニュー値と搭載 PCI スロット位置関係を示します。

選択メニュー値	搭載スロット
29160 A at slot 03 2:00:00	PCI スロット 1
29160 A at slot 04 2:01:00	PCI スロット 2
29160 A at slot 05 2:05:00	PCI スロット 3

- ・ 本カードを搭載した場合、SCSI Select ユーティリティにて「Configuration/View Adapter Settings」-「Boot Device Configuration」の設定内容が以下のように変更されますので、ご注意ください。
Boot Device Configuration
起動する外付け SCSI 装置が接続されている SCSI カードを選択します。

```

Boot Device Configuration
Single image.
Select Master SCSI Controller.. XXXXX
    
```

「XXXXX」を選択し、【Enter】キーを押します。
搭載されているSCSIカードの一覧が表示されますので、起動する外付けSCSI装置のSCSI
カードを選択し、【Enter】キーを押します。

Memo

第4章 BIOS

4

BIOS セットアップについて説明しています。また、本ワークステーションのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1	BIOS セットアップとは	50
2	操作方法	51
3	メニュー詳細	54
4	BIOS のパスワード機能を使う	74

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップは、「CMOS Setup ユーティリティ」と呼ばれるプログラムを使用します。CMOS Setup ユーティリティはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。本ワークステーションでは、必要最小限のことはお買い求めのときにすでに設定されています。次の場合のみ設定を行う必要があります。

- 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS 設定に関するメッセージが表示されたとき

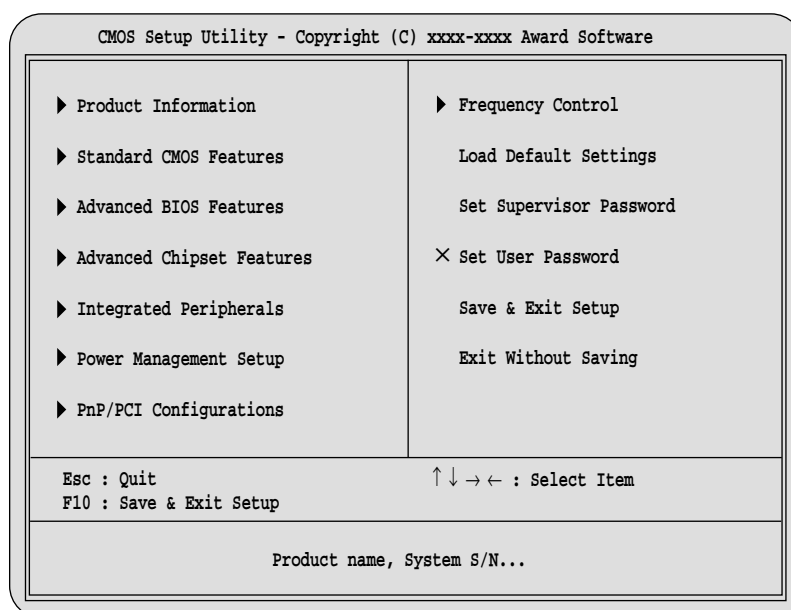
POINT

- ▶ CMOS Setup ユーティリティで設定した内容は、ワークステーション本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、バッテリーによって記録した内容を保存しています。CMOS Setup ユーティリティを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、CMOS Setup ユーティリティに関するエラーメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性があります。バッテリーの消耗が考えられますので、担当営業員、または担当保守員にご相談ください。

2 操作方法

CMOS Setup ユーティリティを起動する

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「CELSIUS」ロゴが表示されている間に、【Ctrl】+【Alt】+【Esc】キーを押します。
CMOS Setup ユーティリティの Main メニューが表示されます。



設定値を変更する

CMOS Setup ユーティリティは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

- 1 【↑】【↓】【→】【←】キーを使用して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

サブメニューがある場合は、サブメニュー画面が表示されます。

手順 1 を繰り返して、設定値を変更する項目を選択します。サブメニューがある場合は、選択できる設定値が表示されます。

- 2 【↑】【↓】キーを押して変更したい設定値にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

POINT

- ▶ CMOS Setup ユーティリティの設定項目を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておいてください。

各キーの役割

CMOS Setup ユーティリティで使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー、【→】キー、【←】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。
【Esc】キー	Main メニューでは、設定値を保存せずに CMOS Setup ユーティリティを終了します。その他のメニューでは前画面に戻ります。
【+】キー、【-】キー、【Page Up】キー、【Page Down】キー	選択した項目の設定値を変更します。
【F1】キー	ヘルプ画面を表示します。
【F5】キー	変更された設定値を変更前の設定値に戻します。
【F10】キー	設定値を保存し、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

CMOS Setup ユーティリティを終了する

CMOS Setup ユーティリティの終わりがたは、次のとおりです。

■ 設定値を保存して終了する

- 1 【F10】キーを押します。または Main メニューで、【↑】【↓】【→】【←】キーを使用して「Save & Exit Seup」を選択し、【Enter】キーを押します。
「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)?」というメッセージが表示されます。
- 2 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。
設定値が保存され、CMOS Setup ユーティリティが終了します。

■ 設定値を保存せずに終了する

- 1 Main メニュー以外のメニューでは、何度か【Esc】キーを押して Main メニューに戻ります。
- 2 【Esc】キーを押します。または【↑】【↓】【→】【←】キーを使用して「Exit Without Saving」を選択し、【Enter】キーを押します。
「Quit Without Saving (Y/N)?」というメッセージが表示されます。
- 3 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。
CMOS Setup ユーティリティが終了します。

Boot Menu を使用する

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「CELSIUS」ロゴが表示されている間に【F12】キーを押します。
Boot Menu 画面が表示されます。
- 3 【↑】【↓】キーを使用して起動するデバイスを選択します。
- 4 【Enter】キーを押します。
選択したデバイスからシステムを起動します。選択したデバイスが接続されていない、またはブートセクタが見つからない場合はスキップします。

POINT

- ▶ Boot Menu 画面から抜ける場合は【F4】キーを押してください。

3 メニュー詳細

CMOS Setup ユーティリティの個々のメニューを説明します。

POINT

- ▶ CMOS Setup ユーティリティのメニューは、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

Product Information メニュー

本ワークステーションの製品情報を表示します。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) xxxx-xxxx Award Software		Item Help
Product Information		
Product Name	CELSIUS330	
System S/N		
Main Board ID		
Main Board S/N		
System BIOS Version	V6.0	
SMBIOS Version	x.x	
SYSTEM BIOS ID	xxx-xx xx	
BIOS release Data	xxx xx, xxxx	

Esc:Exit

Product Name

製品名を表示します。

System S/N

シリアルナンバーを表示します。本ワークステーションでは無効な情報です。

Main Board ID

マザーボードの ID を表示します。本ワークステーションでは無効な情報です。

Main Board S/N

マザーボードのシリアルナンバーを表示します。本ワークステーションでは無効な情報です。

□ System BIOS Version

BIOS の版数を表示します。

□ SMBIOS Version

SMBIOS の版数を表示します。

□ System BIOS ID

BIOS の版数を表示します。

□ BIOS Release Date

BIOS の作成日を表示します。

Standard CMOS Features メニュー

本ワークステーションの、日時、ハードディスク、フロッピーディスクなどに関する基本的な設定を行います。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) xxxx-xxxx Award Software		
Standard CMOS Features		
Date (mm:dd:yy)	xxx, mm dd yyyy	Item Help
Time (hh:mm:ss)	hh : mm : ss	
▶ IDE Primary Master	[xxxxxx]	
▶ IDE Primary Slave	[xxxxxx]	
▶ IDE Secondary Master	[xxxxxx]	
▶ IDE Secondary Slave	[xxxxxx]	
Drive A	[1.44M, 3.5 in.]	
Video	[EGA/VGA]	
Halt On	[All , But Keyboard]	
Base Memory	640K	
Extended Memory	xxxxxxK	
Total Memory	xxxxxxK	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F7:Default Settings

□ Date

本ワークステーションの日付を示します。日付は " 曜日 , 月 日 年 " の形式で表示されます。現在の日付の設定を変更するには、キーボードから **Date** に新しい日付の数値を入力します。**[Enter]** キーを押すと、月・日・年の順にカーソルが移動します。

□ Time

本ワークステーションの時刻を示します。時刻は " 時 : 分 : 秒 " の形式で表示されます。現在の時刻の設定を変更するには、キーボードから **Time** に新しい時刻の数値を入力します。**[Enter]** キーを押すと、時・分・秒の順にカーソルが移動します。

POINT

- ▶ Date および Time は一度合わせれば、電源を入れるたびに設定し直す必要はありません。
- ▶ Date および Time で入力した数値を修正するときは、【Back Space】キーを押して再度入力してください。

□ IDE Primary Channel Master

□ IDE Primary Channel Slave

□ IDE Secondary Channel Master

□ IDE Secondary Channel Slave

各 IDE 規格のドライブ装置の各種設定を行います。

サブメニューを使って、プライマリ IDE コネクタとセカンダリ IDE コネクタに取り付けたマスタとスレーブのハードディスクなどのタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューの画面が表示されます。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) xxxx-xxxx Award Software		
IDE Primary Master		
IDE HDD Auto-Detection	[Press Enter]	Item Help
IDE Primary Master	[AUTO]	
Access Mode	[AUTO]	
Capacity	xxxxxMB	
Cylinder	xxxxx	
Head	xxxxx	
Precomp	xxxxx	
Landing Zone	xxxxx	
Sector	xxxxx	

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults

POINT

- ▶ 不適切な転送モードに設定した場合、システムが正しく起動しない場合があります。初期値から変更しないでください。
- IDE HDD Auto-Detection…この項目を選択して【Enter】キーを押すと、本ワークステーションが自動的に IDE ドライブのタイプを認識します。
- IDE Primary Master…IDE デバイスのタイプを設定します。
 - ・ Auto（初期値）：本ワークステーションが IDE デバイスのタイプを自動的に認識します。IDE デバイスの各種設定を自分で行わない場合に選択します。
 - ・ None：IDE デバイスを使わない場合に選択します。
 - ・ Manual：IDE デバイスのタイプを手動で設定します。

POINT

▶ 通常は Auto の設定でお使いください。

- Access Mode…IDE ドライブのアクセスモードを設定します。
この項目は、IDE Primary Master/IDE Primary Slave/IDE Secondary Master/IDE Secondary Slave を Auto または Manual に設定したときのみ設定が可能となります。
 - ・ CHS : CHS 方式を使用します。
 - ・ LBA : LBA 方式を使用します。
 - ・ Large : Large 方式を使用します。
 - ・ Auto (初期値) : アクセスモードを自動設定します。

POINT

▶ 通常は Auto の設定でお使いください。

- Capacity, Cylinder, Head, Precomp, Landing Zone, Sector…本ワークステーションが検出したハードディスクの最大容量/シリンダ数/ヘッド数/書き込み補修シリンダ番号/HDD ヘッド退避シリンダ位置/セクタ数を表示します。
また、Access Mode を LBA に設定したときのみ設定が可能となります。

□ Drive A

フロッピーディスクドライブのタイプ (記録密度とドライブサイズ) を設定します。

- ・ None
- ・ 360KB 5.25-inch
- ・ 1.2MB 5.25-inch
- ・ 720KB 3.5-inch
- ・ 1.44MB 3.5-inch (初期値)
- ・ 2.88MB 3.5-inch

POINT

▶ 本ワークステーションでは 1.44MB 3.5-inch フロッピーディスクドライブが搭載されています。1.44MB 3.5-inch 以外の設定では正常に動作しません。

□ Video

グラフィックスカードのタイプを設定します。

- ・ EGA/VGA (初期値)
- ・ CGA 40
- ・ CGA 80
- ・ MONO

□ Halt On

どのような種類のエラーが発生したときにシステムを停止するかを設定します。

- ・ All Errors : すべてのエラーに対してシステムを停止します。
- ・ No Errors : エラーが発生しても、システムを停止しません。
- ・ All , But Keyboard (初期値) : キーボード以外のエラー発生時にシステムを停止します。
- ・ All , But Diskette : フロッピーディスク以外のエラー発生時にシステムを停止します。
- ・ All , But Disk/Key : キーボードおよびフロッピーディスク以外のエラー発生時にシステムを停止します。

POINT

- ▶ フロッピーディスクのエラー発生時にシステムを停止させるには、「Advanced BIOS Features」 - 「Boot Up Floppy Seek」を Enabled にする必要があります。

□ Base Memory

1MB 以下の使用可能なベースメモリサイズが表示されます。

□ Extended Memory

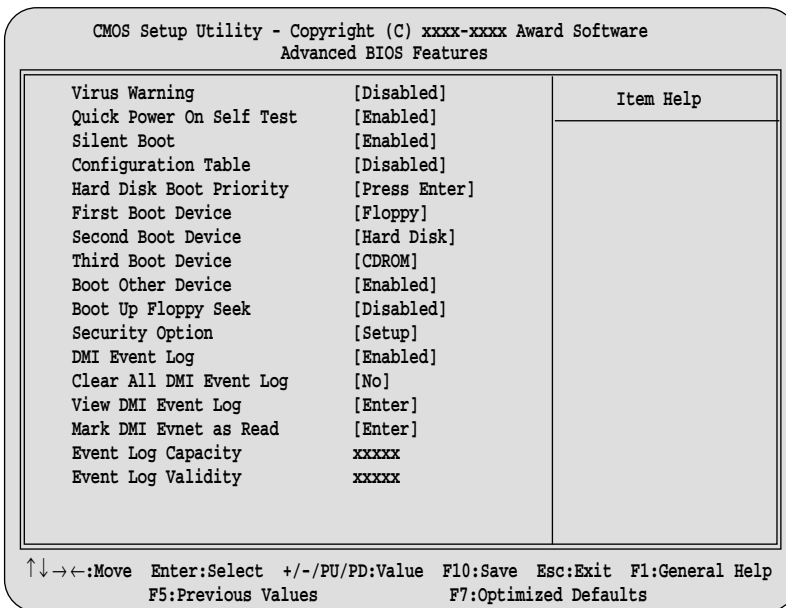
1MB 以上のメモリサイズが表示されます。

□ Total Memory

総メモリサイズが表示されます。

Advanced BIOS Features メニュー

本ワークステーション起動時の各種設定を行います。

**□ Virus Warning**

ハードディスクの起動セクタをウイルスから保護するため、起動セクタへの書き込みを停止するかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : 起動セクタへの書き込みを禁止しません。
- Enabled : 起動セクタへの書き込みを禁止します。

POINT

- ▶ OS をインストールする場合は、Disabled に設定してください。

□ Quick Power On Self Test

本ワークステーション起動時または再起動時に、自己診断（POST）を行うかどうかを設定します。

- ・ Disabled : 起動時または再起動時に POST を行います。
- ・ Enabled (初期値) : 起動時または再起動時に POST を行いません。

□ Silent Boot

本ワークステーション起動時または再起動時に、自己診断（POST）画面を表示するかどうかを設定します。

- ・ Disabled : 起動時または再起動時に「CELSIUS」ロゴを表示します。
- ・ Enabled (初期値) : 起動時または再起動時に自己診断（POST）画面を表示します。

□ Configuration Table

システム構成情報画面を表示するかどうかを設定します。画面はOS起動直前に表示されます。

- ・ Disabled (初期値) : システム情報を表示しません。
- ・ Enabled : システム情報を表示します。

□ Hard Disk Boot Priority

システムを起動するハードディスクの優先順位を設定します。

【↑】【↓】キーを使って優先順位を変更したいデバイスを選択し、【+】キーを押すと上側に、【-】キーを押すと下側にそれぞれ項目が移動して優先順位が変更されます。

- ・ 1.Pri.M xxxxx (初期値) : プライマリマスタに接続されているハードディスクから起動します。
- ・ 2.Bootable Add-in Cards (初期値) : 拡張カードに接続されているハードディスクから起動します。

□ First Boot Device (初期値 : Floppy)

□ Second Boot Device (初期値 : Hard Disk)

□ Third Boot Device (初期値 : CD-ROM)

起動ドライブの優先順位を設定します。

優先順位は First Boot Device、Second Boot Device、Third Boot Device の順です。

- ・ Floppy : フロッピーディスクドライブから起動します。
- ・ LS120 : LS-120 から起動します (本ワークステーションではサポートしていません)。
- ・ Hard Disk : IDE ハードディスクドライブから起動します。
- ・ CDROM : CD-ROM ドライブから起動します。
- ・ ZIP100 : ZIP から起動します (本ワークステーションではサポートしていません)。
- ・ LAN : ネットワークサーバから起動します。
- ・ Disabled : 無効にします。

POINT

- ▶ CD-ROM からの起動にはブート可能な OS の入った CD-ROM が必要となります。一度電源を入れたあと、CD-ROM ドライブに CD-ROM をセットしてから再起動してください。
- ▶ ネットワークサーバから起動するためには、「Wired for Management Baseline Version 2.0」に準拠したインストレーションサーバシステムが必要となります。

Boot Other Device

本ワークステーションを、通常の起動順序以外のドライブから起動できるようにするかどうかを設定します。

- Disabled : 起動できません。
- Enabled (初期値) : 起動できます。

Boot up Floppy Seek

本ワークステーション起動時または再起動時に、フロッピーディスクドライブにアクセスするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : 起動時または再起動時に、フロッピーディスクドライブにアクセスしません。
- Enabled : 起動時または再起動時に、フロッピーディスクドライブにアクセスします。

Security Option

パスワードの入力を、BIOS 設定時のみ要求するか、システム起動時に毎回要求するかを設定します。

- Setup (初期値) : BIOS 設定時のみ要求します。
- System : システム起動時に毎回要求します。

DMI Event Log

DMI イベントログを記録するかどうかを設定します。

- Disabled : DMI イベントログを記録しません。
- Enabled (初期値) : DMI イベントログを記録します。

Clear All DMI Event Log

再起動時にイベントログの内容を消去するかどうかを設定します。

- No (初期値) : イベントログを消去しません。
- Yes : イベントログを次回再起動時に消去します。再起動すると設定は No になります。

View DMI Event Log

【Enter】キーを押すと、イベントログの詳細を表示します。

Mark DMI Event Log

【Enter】キーを押すと、記録されているイベントログをすべて既読にします。

【Enter】キーを押す以前に記録されたすべてのイベントログは、表示されなくなります。

Event Log Capacity

イベントログを保存可能かどうかを表示します。

Event Log Validity

イベントログの内容が有効かどうかを表示します。

Advanced Chipset Features メニュー

メモリに関する詳細を設定します。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) xxxx-xxxx Award Software Advanced Chipset Features		
Memory Hole At 15M-16M	[Disabled]	Item Help
AGP Aperture Size (MB)	[64]	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F7:Optimized Defaults

Memory Hole At 15M-16M

本ワークステーションのメモリエリア 15MB から 16MB 間に拡張カードのメモリエリアを割り当てるかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : 15MB-16MB 間の 1MB を拡張カードに割り当てます。
- Enabled : 15MB-16MB 間の 1MB を本ワークステーションに割り当てます。

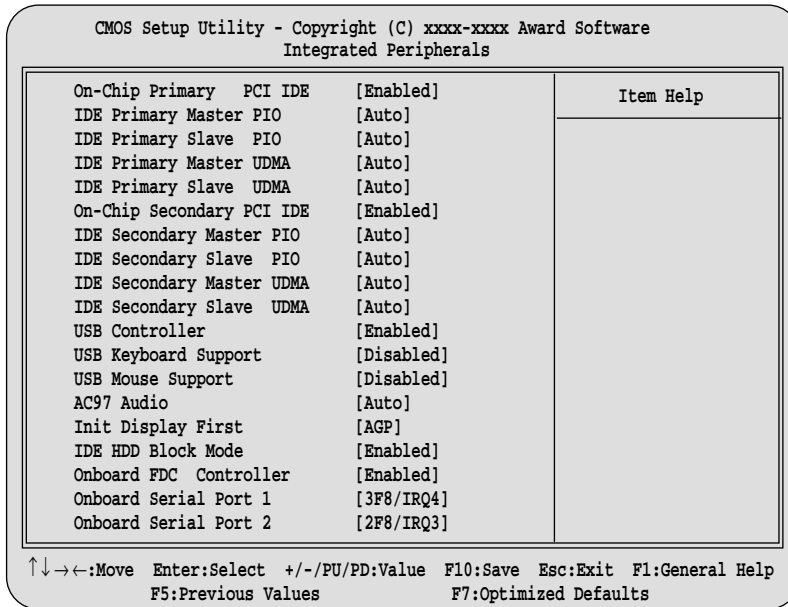
AGP Aperture Size (MB)

AGP ビデオコントローラが使うアパーチャサイズを設定します。

- 4 / 8 / 16 / 32 / 64 (初期値) / 128 / 256

Integrated Peripherals メニュー

マザーボード上の入出力装置に関する設定を行います。



□ On-Chip Primary PCI IDE

プライマリ IDE コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : プライマリ IDE コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値) : プライマリ IDE コントローラを有効にします。

□ IDE Primary Master PIO

□ IDE Primary Slave PIO

デバイスホスト間のデータ転送モード (高速 PIO) を設定します。

- Disabled : データ転送モード (高速 PIO) を無効にします。
- AUTO (初期値) : データ転送モード (高速 PIO) を自動的に最適なモードに設定します。
- Mode 0 / Mode 1 / Mode 2 / Mode 3 / Mode 4 : 各データ転送モードに設定します。
数値が大きくなるほどデータ転送速度が上がります。

POINT

- ▶ USB 機器を接続する場合、Enabled に設定したままでお使いください。

□ IDE Primary Master UDMA

□ IDE Primary Slave UDMA

デバイスホスト間のデータ転送モード (Ultra DMA) を設定します。

- Disabled : データ転送モード (Ultra DMA) を無効にします。
- AUTO (初期値) : データ転送モード (Ultra DMA) を有効にします。

On-Chip Secondary PCI IDE

セカンダリ IDE コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : セカンダリ IDE コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値) : セカンダリ IDE コントローラを有効にします。

IDE Secondary Master PIO

IDE Secondary Slave PIO

デバイスホスト間のデータ転送モード (高速 PIO) を設定します。

- Disabled : データ転送モード (高速 PIO) を無効にします。
- AUTO (初期値) : データ転送モード (高速 PIO) を自動的に最適なモードに設定します。
- Mode 0 / Mode 1 / Mode 2 / Mode 3 / Mode 4 : 各データ転送モードに設定します。数値が大きくなるほどデータ転送速度が上がります。

IDE Secondary Master UDMA

IDE Secondary Slave UDMA

デバイスホスト間のデータ転送モード (Ultra DMA) を設定します。

- Disabled : データ転送モード (Ultra DMA) を無効にします。
- AUTO (初期値) : データ転送モード (Ultra DMA) を有効にします。

USB Controller

USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : USB コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値) : USB コントローラを有効にします。

POINT

- ▶ USB 機器を接続する場合、Enabled に設定したままでお使いください。

USB Keyboard Support

Windows NT など USB をサポートしていない OS で USB キーボードを使用できるようにするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : USB キーボードを使用できないようにします。
- Enabled : USB キーボードを使用できるようにします。

USB Mouse Support

Windows NT など USB をサポートしていない OS で USB マウスを使用できるようにするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : USB マウスを使用できないようにします。
- Enabled : USB マウスを使用できるようにします。

AC97 Audio

マザーボード上のオーディオコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Auto (初期値) : オーディオコントローラを有効にします。
- Disabled : オーディオコントローラを無効にします。

□ Init Display First

PCI のグラフィックスカードを増設した場合、PCI カードと AGP カードのどちらを使うかを設定します。

- ・ PCI Slot : PCI カードを使います。PCI のグラフィックスカードを増設していない場合は AGP カードを使います。
- ・ AGP (初期値) : AGP カードを使います。

POINT

- ▶ マルチモニタ機能をお使いの場合は、AGP に設定してください。

□ IDE HDD Block Mode

IDE ハードディスクでブロック転送 (データを複数セクタ分まとめて転送すること) を行うかどうかを設定します。

- ・ Disabled : ブロック転送を行いません。
- ・ Enabled (初期値) : ブロック転送を行います。

□ Onboard FDC Controller

フロッピーディスクコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- ・ Disabled : フロッピーディスクコントローラを無効にします。
- ・ Enabled (初期値) : フロッピーディスクコントローラを有効にします。

POINT

- ▶ Disabled に設定する場合は、「Standard CMOS Features」 - 「Drive A」を None に設定してください。

□ Onboard Serial Port 1

シリアルポート 1 の I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- ・ Disabled : シリアルポート 1 を無効にします。
- ・ 3F8h/IRQ4 (初期値)
- ・ 2F8h/IRQ3
- ・ 3E8/IRQ4
- ・ 2E8/IRQ3
- ・ Auto : I/O アドレスと割り込み要求を自動的に設定します。

POINT

- ▶ Disabled に設定すると、デバイスマネージャから見えなくなります。
- ▶ リソースを解放するには、デバイスマネージャで無効にしてください。

□ Onboard Serial Port 2

シリアルポート 2 の I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- ・ Disabled : シリアルポート 2 を無効にします。
- ・ 3F8h/IRQ4
- ・ 2F8h/IRQ3 (初期値)
- ・ 3E8/IRQ4
- ・ 2E8/IRQ3
- ・ Auto : I/O アドレスと割り込み要求を自動的に設定します。

POINT

- ▶ Disabled に設定すると、デバイスマネージャから見えなくなります。
- ▶ リソースを解放するには、デバイスマネージャで無効にしてください。

□ Onboard Parallel Port

パラレルポートの I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- Disabled : パラレルポートを無効にします。
- 378/IRQ7 (初期値)
- 278/IRQ5
- 3BC/IRQ7

POINT

- ▶ Disabled に設定すると、デバイスマネージャから見えなくなります。
- ▶ リソースを解放するには、デバイスマネージャで無効にしてください。

□ Parallel Port Mode

パラレルポートのデータ転送モードを設定します。

この項目は、Onboard Parallel Port で Disabled 以外が選択されているときに設定できます。

- SPP / EPP1.9+SPP / ECP / EPP1.9+ECP / PRINTER (初期値) / EPP1.7+SPP / EPP1.7+ECP : 接続する周辺機器に合わせて設定してください。

□ ECP Mode Use DMA

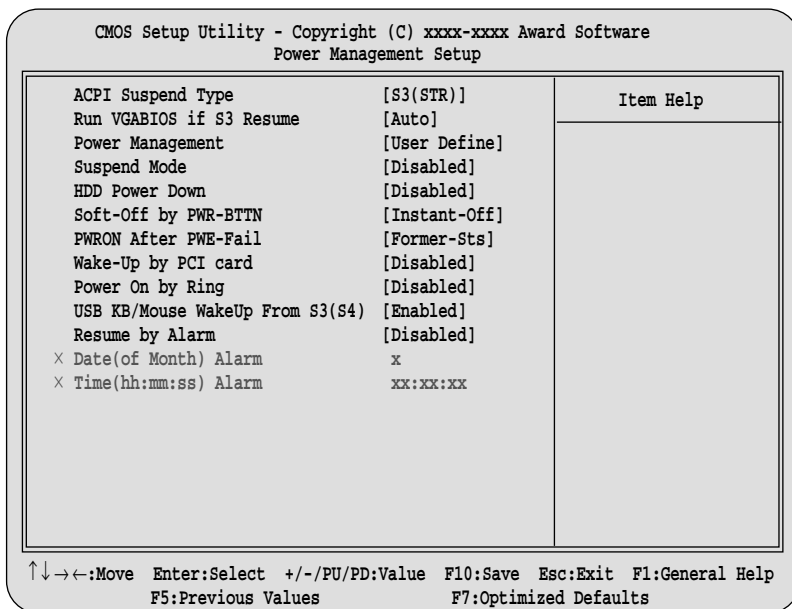
ECP 規格の周辺装置に DMA 転送を行う場合の DMA チャンネルを設定します。

この項目は、Parallel Port Mode で ECP、EPP1.9+ECP または EPP1.7+ECP が選択されているときに設定できます。

- 1
- 3 (初期値)

Power Management Setup メニュー

省電力モードに関する設定を行います。



□ ACPI Suspend Type

ACPI 対応の OS のスタンバイ方式を設定します。

- S1(POS) : S1 (標準 : Sleep1, PowerOn Suspend) に設定します。システムの状態は保存しますが、CPU を停止させます。
- S3(STR) (初期値) : S3 (高度 : Sleep3, Suspend To RAM) に設定します。システムの状態をメモリに保存し、その他の回路を停止させます。
- S1&S3 : S1 または S3 を自動的に設定します。

POINT

- ▶ Windows XP/2000 モデルは ACPI モード高度 (S3) に設定されています。

□ Run VGABIOS if S3 Resume

S3 (高度) のスタンバイ状態から復帰するとき、BIOS がビデオアダプタを初期化するかどうかを設定します。

- Auto (初期値) : 自動的に設定します。
- Yes : 初期化します。
- No : 初期化しません。

□ Power Management

省電力モードのレベルを設定します。

- User Define (初期値) : 省電力モードのレベルを手動で設定します。設定できるパラメータは Suspend Mode と HDD Power Down です。
- Min Saving : 最小限の省電力モードに設定します。省電力モードへの移行時間は 1 時間です。

- ・ Max Saving: 最大限の省電力モードに設定します。省電力モードへの移行時間は1分です。

POINT

- ▶ Windows XP/2000 の場合、本設定は無効になり、OS 側の設定が有効になります。

□ Suspend Mode

省電力モードに移行し、CPU を停止するまでの時間を設定します。

この項目は、Power Management で User Define を選択した場合に設定できます。

- ・ Disabled (初期値) : 省電力モードには移行しません。
- ・ 1 Min/2 Min/4 Min/8 Min/12 Min/20 Min/30 Min/40 Min/1 Hour : 省電力モードに移行し、CPU を停止するまでの時間を設定します。

POINT

- ▶ Windows XP/2000 の場合、本設定は無効になり、OS 側の設定が有効になります。

□ HDD Power Down

ハードディスクへのアクセスがなくなってから、ハードディスクを省電力モードに移行し、モーターを止めるまでの時間を設定します。

この項目は、Power Management で User Define を選択した場合に設定できます。

- ・ Disabled (初期値) : 省電力モードに移行しません。
- ・ 1 Min/2 Min/3 Min/4 Min/5 Min/6 Min/7 Min/8 Min/9 Min/10 Min/11 Min/12 Min/13 Min/14 Min/15 Min : 省電力モードに移行し、モーターを止めるまでの時間を設定します。

POINT

- ▶ Windows XP/2000 の場合、本設定は無効になり、OS 側の設定が有効になります。

□ Soft-Off by PWR-BTTN

電源ボタンを押したときに、省電力モードに移行するか、電源が切れるようにするかを設定します。

- ・ Instant-Off (初期値) : 電源ボタンを押すと電源が切れます。
- ・ Delay 4 sec : 通常状態のときに電源ボタンを押すと省電力モードになり、省電力モードのときに電源ボタンを押すと電源が切れます。
4 秒以上押し続けた場合は、電源が切れます。

POINT

- ▶ Windows XP/2000 の場合、本設定は無効になり、OS 側の設定が有効になります。

□ PWRON After PWE-Fail

停電などで電源が切断された場合に、通電再開時の動作を設定します。

- ・ Former Sts (初期値) : 電源が切断されたときの状態に戻ります。
- ・ On : 電源が入るようにします。
- ・ Off : 電源が入らないようにします。

POINT

- ▶ UPS のスケジュール運転を行う場合は Former Sts または On を選択してください。
- ▶ Former Sts に設定していて、電源が切れたときの状態がスタンバイ状態または休止状態の場合、通電再開時に電源が入ります。

□ Wake Up by PCI card

標準状態の LAN が Magic Packet を受信したときに、電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

また、PCI カードが PME 信号を発生させた場合に、電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

- **Disabled (初期値)** : Magic Packet の受信または PME 信号の発生により電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりしません。
- **Enabled** : Magic Packet の受信または PME 信号の発生により電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりします。

POINT

- ▶ 本機能は、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切った場合、動作しません。電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切った場合は、再度電源を入れて OS 上から電源を切断してください。
- ▶ Wake on LAN で電源を入れる場合は Enabled に設定します。
- ▶ Windows XP/2000 の場合、スタンバイ状態や休止状態から復帰させるには本設定と OS 側の設定が必要です。
- ▶ 電源オフからの動作は、OS にかかわらず本設定が有効です。
- ▶ 停電などからの復帰後、一度電源を入れるまで、この設定は有効になりません。

□ Power On by Ring

モデム (シリアルポートに接続のモデム) への着信により電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

- **Disabled (初期値)** : モデムへの着信により電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりしません。
- **Enabled** : モデムへの着信により電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりします。

POINT

- ▶ 本機能は、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切った場合、動作しません。電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切った場合は、再度電源を入れて OS 上から電源を切断してください。
- ▶ Enabled に設定した状態で、シリアルポートに接続したモデムの電源を入れたり切ったりすると、モデムの種類によっては、ワークステーション本体の電源が入ったりスタンバイ状態から復帰したりすることがあります。
- ▶ Windows XP/2000 の場合、本設定でスタンバイ状態や休止状態から復帰させることはできません。OS 側で設定してください。
- ▶ 電源オフからの動作は、OS にかかわらず本設定が有効です。
- ▶ 停電などからの復帰後、一度電源を入れるまで、この設定は有効になりません。

□ USB KB/Mouse Wake-Up From S3

USB キーボードおよびマウスにより S3 (高度) スタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

- **Disabled** : USB キーボードおよびマウスにより S3 (高度) スタンバイ状態から復帰しません。

- ・ Enabled (初期値) : USB キーボードおよびマウスにより S3 (高度) スタンバイ状態から復帰します。

POINT

- ▶ 本項目を Enabled に設定してお使いになるときは、デバイスマネージャで USB デバイスの電源管理を設定してください。

Resume by Alarm

Date(of Month) Alarm、Date(hh:mm:ss) Alarm で設定した時刻に電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

- ・ Disabled (初期値) : 設定した時刻に電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりしません。
- ・ Enabled : 設定した時刻に電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりします。

Date(of Month) Alarm

ウェイクアップする日付 (0 ~ 31 日) を設定します。この項目を選択して **【Enter】** キーを押すと、日付を入力できます。

この項目は、Resume by Alarm で Enabled を選択した場合に設定できます。

Date(hh:mm:ss) Alarm

ウェイクアップする時刻を設定します。この項目を選択して **【Enter】** キーを押すと、時刻を入力できます。

この項目は、Resume by Alarm で Enabled を選択した場合に設定できます。

POINT

- ▶ 本機能は、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切った場合、動作しません。電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切った場合は、再度電源を入れて OS 上から電源を切断してください。
- ▶ Windows XP/2000 の場合、本設定でスタンバイ状態や休止状態から復帰させることはできません。OS 側で設定してください。
- ▶ 電源オフからの動作は、OS にかかわらず本設定が有効です。
- ▶ 停電などからの復帰後、一度電源を入れるまで、この設定は有効になりません。

PnP/PCI Configurations メニュー

システムリソースに関する設定を行います。



□ Reset Configuration Data

ESCD (Extended System Configuration Data) に保存されている Plug & Play の情報を、起動時にリセットするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) リセットしません。
- Enabled : リセットします。

□ Resources Controlled By

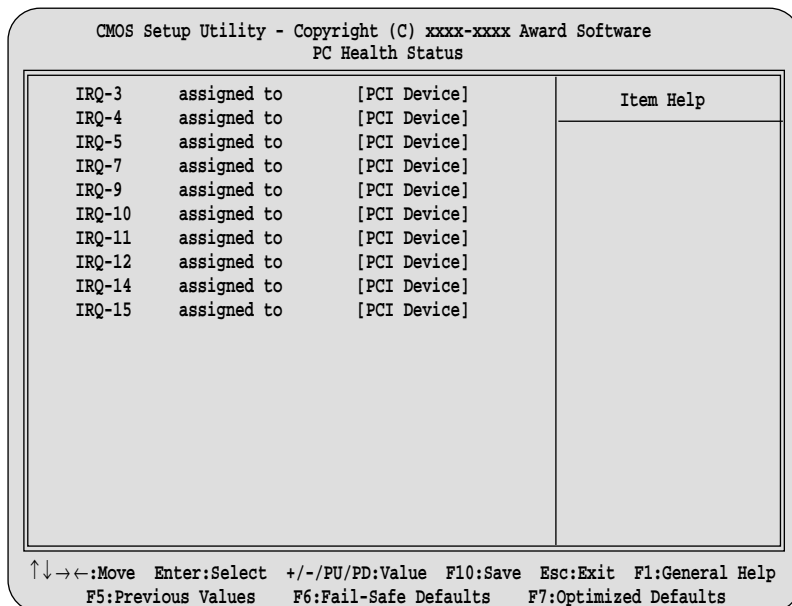
各装置に割り当てる割り込み要求や DMA、I/O アドレスなどのリソースを、Plug & Play により自動的に割り当てるか手動で割り当てるかを選択します。

- Auto(ESCD) (初期値) 自動的に割り当てます。
- Manual : 手動で割り当てます。

□ IRQ Resources

各装置に割り当てる割り込み要求を設定します。

この項目は、Resources Controlled By で Manual が選択されている場合に設定できます。この項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。



- IRQ-3/IRQ-4/IRQ-5/IRQ-7/IRQ-9/IRQ-10/IRQ-11/IRQ-12/IRQ-14/IRQ-15 assigned to : 各割り込み要求を割り当てます。
 - ・ PCI Device (初期値) : 選択した割り込み要求を PCI スロットに接続された機器に割り当てます。
 - ・ Reserved : 割り込み要求を割り当てません。

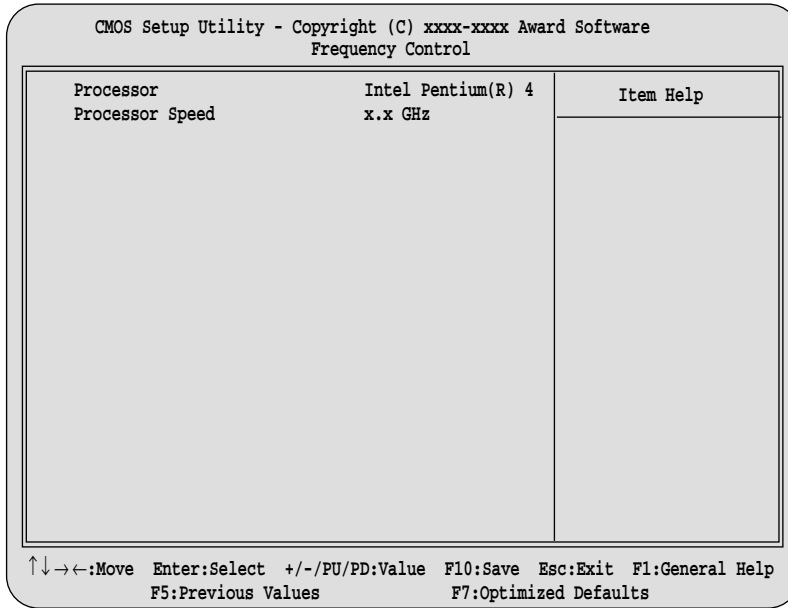
□ PCI/VGA Palette Snoop

ワークステーション本体のビデオコントローラのパレット情報(画面に表示する色を定義する情報)を、グラフィックスカードのビデオコントローラからも参照できるようにするかどうかを設定します。

- ・ Disabled (初期値) パレット情報を参照しません。
- ・ Enabled : パレット情報を参照します。

Frequency Control メニュー

CPU の情報表示を行います。



Processor

CPU の名称を表示します。

Processor Speed

CPU のクロック数を表示します。

Load Default Settings

工場出荷時の設定に戻します。

Set Supervisor Password

システム管理者用パスワードを設定します。

Set User Password

一般利用者用パスワードを設定します。

Save & Exit Setup

現在の設定を保存してから、CMOS Setup ユーティリティを終了します。【Enter】キーを押すと、終了確認のメッセージが表示されます。

【Y】キーを押し、【Enter】キーを押すと終了します。

【N】キーを押し、【Enter】キーを押すと Main メニューに戻ります。

Exit Without Saving

現在の設定を保存せずに、CMOS Setup ユーティリティを終了します。【Enter】キーを押すと、終了確認のメッセージが表示されます。

【Y】キーを押し、【Enter】キーを押すと終了します。

【N】キーを押し、【Enter】キーを押すと Main メニューに戻ります。

4 BIOS のパスワード機能を使う

本ワークステーションのデータを守るためのパスワード機能を説明します。
本ワークステーションは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定できます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本ワークステーションを使えなくなります。

パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次の2つです。

- 管理者用パスワード：Set Supervisor Password
システム管理者用のパスワードです。
- ユーザー用パスワード：Set User Password
一般利用者用のパスワードです。
ユーザー用パスワードで BIOS 設定を起動すると、設定できる項目が以下の項目に制限されます。
 - ・ ユーザー用パスワード

パスワードを設定する

管理者用パスワード、ユーザー用パスワードを設定する方法を説明します。

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードを設定するときは管理者用パスワードを設定してください。
ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

- 1** CMOS Setup ユーティリティを開始します。
- 2** 【↑】【↓】【→】【←】キーを使用して、「Set Supervisor Password」または「Set User Password」を選択し、【Enter】キーを押します。
「Enter Password:」というメッセージが表示されます。
- 3** パスワードを入力します。
入力できる文字はアルファベットと数字です。最大 8 文字までなら何文字でもかまいません。
入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。

POINT

- ▶ 入力したパスワードは忘れないようにしてください。

4 【Enter】キーを押します。

パスワードを確認するためのウィンドウが表示されます。

パスワードの設定を中止するときは、続けて【Enter】キーを2回押します。

5 手順3で入力したパスワードをもう一度入力し、【Enter】キーを押します。

再入力したパスワードが、手順3で入力したものと違っていた場合は、再び手順3と同じウィンドウが表示されます。パスワードを入力し直してください。

6 続いてもう一方のパスワードも設定する場合は、手順2～5を繰り返します。**7** 設定値を保存して CMOS Setup ユーティリティを終了します。**■ パスワード設定後のワークステーションの起動**

パスワードを設定すると、次に電源を入れたとき、または CMOS Setup ユーティリティを開始するときに、パスワードの入力を要求されます。

パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ▶ 設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「Invalid Password! Press Any Key to Continue.」というメッセージが表示されます。その場合は【Enter】キーを押し、正しいパスワードを入力してください。

誤ったパスワードを3回入力すると、「System Halted!!」というメッセージが表示され、ビープ音が鳴ったままになります。その場合は、電源ボタンを4秒以上押し続けてワークステーションの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを変更／削除する

- 1** 本ワークステーションの電源を入れるか、または再起動します。
- 2** 「CELSIUS」ロゴが表示されている間に、【Ctrl】+【Alt】+【Esc】キーを押します。
- 3** 設定したパスワードを入力し、CMOS Setup ユーティリティを開始します。
管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方を設定している場合、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップを起動すると、管理者用パスワードは変更／削除できません。
- 4** 【↑】【↓】【→】【←】キーを使用して「Set Supervisor Password」または「Set User Password」のどちらか変更／削除したいほうを選び、【Enter】キーを押します。
- 5** ここでは、パスワードを変更するか削除するかによって、操作手順が異なります。
 - ・パスワードを変更する場合
新しいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。パスワードが変更されます。
 - ・パスワードを削除する場合
何も入力しないで【Enter】キーを2回押します。パスワードが削除されます。
- 6** 設定値を保存して、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

パスワードを忘れてしまったときには

設定したパスワードを忘れてしまい、ワークステーションの起動や BIOS 設定 (CMOS Setup) ができなくなったら、次の手順に従ってください。

パスワードが消去され、ワークステーションの起動や CMOS Setup ができるようになります。

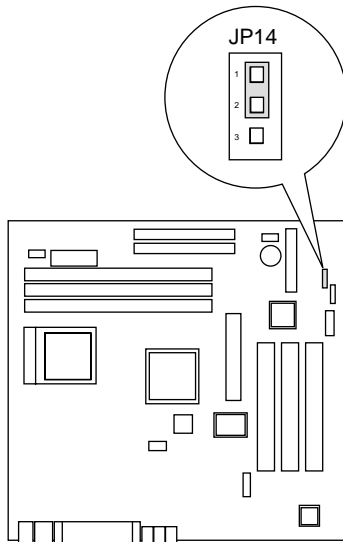
警告

感電



- ジャンパセッティングを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。
- 電源を切った直後は、ワークステーション内部の装置が熱くなっています。電源を切ったあと、10 分ほど待ってから作業を始めてください。やけどの原因となります。

- 1 本ワークステーションの電源を切り、サイドカバーを取り外します。
- 2 マザーボード上のジャンパスイッチ JP14 を、2-3 から 1-2 に変更します。



- 3 10 秒ほど待ってから、マザーボード上のジャンパスイッチ JP14 を、1-2 から 2-3 に変更します。
- 4 サイドカバーを取り付け、電源を入れます。
- 5 CMOS Setup ユーティリティで、設定値をご購入時の状態に戻します。

Memo

第5章

技術情報

本ワークステーションの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	80
2 コネクタ仕様	83

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		CELSIUS330
CPU		Intel® Pentium® 4 プロセッサ 2.40 GHz
キャッシュメモリ		Intel® Pentium® 4 プロセッサ 2.40 GHz : 1次 20KB + 2次 512KB (CPU 内蔵)
システムバス		400MHz
BIOS ROM		256KB (フラッシュ ROM)
メインメモリ		標準 128MB (PC133 SDRAM) ECC 対応、SPD 付き、最大 1.5GB
メモリスロット		× 3
フロッピーディスクドライブ		3.5 インチ×1 (3 モード対応)
ハードディスクドライブ		40GB ^{※1}
CD ドライブ		CD-ROM 読出 40 倍速 ^{※2}
オーディオ機能	サウンドコントローラ	チップセット内蔵 + AC97 コーデック
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 48kHz 16bit ステレオ 同時録音再生機能
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート
通信機能	LAN	100BASE-TX/10BASE-T
インターフェース	シリアル	非同期 RS-232C × 2 D-SUB9 ピン
	パラレル	セントロニクス準拠 ECP/EPP 対応 D-SUB25 ピン×1
	キーボード/マウス	Mini-DIN 6pin (キーボード用×1、マウス用×1)
	USB	USB コネクタ 4 ピン×4 (USB1.1 準拠) (前面×2、背面×2)
	LAN	RJ-45 × 1
	サウンド	マイク端子 (3.5mm モノラル・ミニジャック)、ラインイン端子 (3.5mm ステレオ・ミニジャック)、ラインアウト端子 (3.5mm ステレオ・ミニジャック)
拡張スロット数		× 4 AGP (4X) × 1 PCI (Rev 2.2 準拠) (32bit/33MHz) × 3
ファイルベイ数		× 3 前面 : CD-ROM 搭載済 3.5 インチフロッピーディスクドライブ搭載済 内部 : 3.5 インチハードディスクベイ×1 (うち1つにハードディスク搭載済)
電源/周波数		AC100V 50/60Hz
消費電力	電源切断時	3W 以下 ^{※3}
	動作時	通常約 53W 最大約 160W スタンバイ時約 3W ^{※4}
外形寸法		W136mm × D348mm × H330mm
質量		約 9 kg
盗難防止用ロック		あり
使用環境		温度 10 ~ 35 °C 湿度 20 ~ 80% (RH)
保存環境		温度 0 ~ 50 °C 湿度 8 ~ 80% (RH)
DirectX		DirectX8.1

※1 : カスタムメイドオプションのハードディスクを選択している場合、80GB です。
 本書に記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。1MB=1024²byte、
 1GB=1024³byte 換算で Windows 上に表示される実際の容量は、本書に記載のディスク容量より少なくなります。

※2：カスタムメイドオプションで CD-R/RW を選択している場合、書込 24 倍速、書換 10 倍速、読出 40 倍速（CD-ROM）/22 倍速（CD-R/RW）です（バッファアンダーラン防止機能あり）。

※3：電源「オフ」状態のエネルギー消費は、製品の電源プラグをコンセント（AC100V）から抜くことにより回避できます。

※4：ご使用になる機器構成により値は変動します。

省エネ法に基づくエネルギー消費効率

CPU		Pentium® 4- 2.4GHz
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 [単位 :W/MTOPS] (区分 : Q)	Windows XP モデル	0.00041
	Windows 2000 モデル	0.00041

LAN 機能

LAN コントローラ	Intel 82562ET
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 2Kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル※1 (100Mbps : カテゴリ 5、10Mbps : カテゴリ 3 ~ 5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数/セグメント	ハブユニット※2による

※1：ネットワークを 100Mbps で確実に動作させるには、非シールド・ツイスト・ペア（UTP）カテゴリ 5 またはそれ以上のデータ・グレードのケーブルをお使いください。カテゴリ 3 またはカテゴリ 4 のケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

※2：ハブユニットとは、100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

- ▶ 本ワークステーション標準搭載の LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

表示機能

■ 標準モデル

グラフィックスアクセラレータ	Millennium G450
ビデオ RAM	32MB
解像度／発色数	プライマリ：最大 2048 × 1536 ドット / 最大 1677 万色 セカンダリ：最大 1600 × 1200 ドット / 最大 1677 万色
インタフェース	デジタルディスプレイ (DVI-I 準拠) 29 ピン (コピープロテクション非対応) × 1 ※1

※1：DVI-VGA 変更ケーブルを使用する場合、アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン × 2 に変更可能。

■ カスタムメイドオプションで CELSIUS FireGL 8800 を選択している場合

グラフィックスアクセラレータ	CELSIUS FireGL 8800
ビデオ RAM	128MB
解像度／発色数	最大 2048 × 1536 ドット / 最大 1677 万色※1 (アナログ RGB 接続時) 最大 1600 × 1200 ドット / 最大 1677 万色※1 (DVI 接続時) 最大 1600 × 1200 ドット / 最大 1677 万色※1 (マルチモニタ時プライマリ、セカンダリともに)
インタフェース	アナログ RGB ミニ D-SUB15 ピン × 1 デジタルディスプレイ (DVI-I 準拠) 29 ピン (コピープロテクション非対応) × 1

※1：256 色は発色できません。

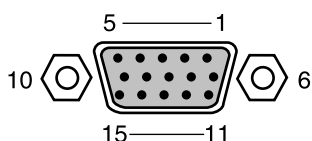
■ カスタムメイドオプションで CELSIUS Quadro4 900XGL を選択している場合

グラフィックスアクセラレータ	CELSIUS Quadro4 900XGL
ビデオ RAM	128MB
解像度／発色数	最大 2048 × 1536 ドット / 最大 1677 万色 (アナログ RGB 接続時) 最大 1600 × 1200 ドット / 最大 1677 万色 (DVI 接続時)
インタフェース	デジタルディスプレイ (DVI-I 準拠) 29 ピン (コピープロテクション非対応) × 2

2 コネクタ仕様

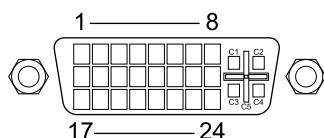
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

■ アナログ RGB コネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5～8	GND	—	グラウンド
9	+5V	—	+5V
10	GND	—	グラウンド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

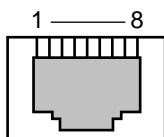
■ DVI-I コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	データチャンネル 2-
2	TX2+	出力	データチャンネル 2+
3	TX2/4 Shield	—	グラウンド
4	N.C	—	未接続
5	—	—	未接続
6	DDC Clock	入出力	DDC クロック
7	DDC Data	入出力	DDC データ
8	Analog V Sync	出力	アナログ垂直同期信号
9	TX1-	出力	データチャンネル 1-
10	TX1+	出力	データチャンネル 1+
11	TX1/3 Shield	—	グラウンド
12	N.C	—	未接続

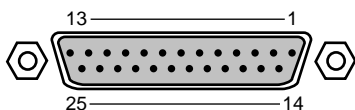
ピン番号	信号名	方向	説明
13	N.C	—	未接続
14	+5V	—	+5V
15	GND	—	グラウンド
16	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
17	TX0-	出力	データチャンネル 0-
18	TX0+	出力	データチャンネル 0+
19	TX0/5 Shield	—	グラウンド
20	N.C	—	未接続
21	N.C	—	未接続
22	TXC Shield	—	グラウンド
23	TXC+	出力	データクロック +
24	TXC-	出力	データクロック -
C1	Analog Red	出力	アナログレッド出力
C2	Analog Green	出力	アナロググリーン出力
C3	Analog Blue	出力	アナログブルー出力
C4	Analog H Sync	出力	アナログ水平同期信号
C5	Analog Ground	—	アナロググラウンド

■ LAN コネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	TD+	出力	送信データ +
2	TD-	出力	送信データ -
3	RD+	入力	受信データ +
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ -
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

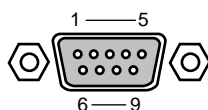
■ パラレルコネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA0	入出力	データ 0
3	DATA1	入出力	データ 1
4	DATA2	入出力	データ 2
5	DATA3	入出力	データ 3

ピン No.	信号名	方向	内容
6	DATA4	入出力	データ 4
7	DATA5	入出力	データ 5
8	DATA6	入出力	データ 6
9	DATA7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	—	グラウンド

■ シリアルコネクタ



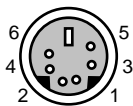
ピン No.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■ マウスコネクタ



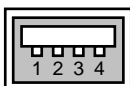
ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ キーボードコネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ USB コネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	- データ信号
3	+DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

索引

A

Advanced BIOS Features メニュー	58
Advanced Chipset Features メニュー	61

B

BIOS

ーセットアップ	50
ー操作方法	51
ーのパスワード機能を使う	74

C

CD をセットする／取り出す	23
----------------	----

D

DVI-I コネクタ	83
------------	----

F

Frequency Control メニュー	72
------------------------	----

I

Integrated Peripherals メニュー	62
-----------------------------	----

L

LAN コネクタ	84
----------	----

P

PnP/PCI Configurations メニュー	70
Power Management Setup メニュー	66
Product Information メニュー	54

S

Standard CMOS Features メニュー	55
-----------------------------	----

U

USB コネクタ	86
----------	----

あ行

アナログ RGB コネクタ	83
---------------	----

か行

拡張カードを取り付ける	43
キーボード	
ーコネクタ	86
ーのお手入れ	29

さ行

周辺機器	34
仕様一覧	80
シリアルコネクタ	85
施錠	31

は行

ハードディスク	27
パスワード	
ーの種類	74
ーを設定する	74
ーを変更／削除する	76
ーを忘れてしまったときには	77
パラレルコネクタ	84
フロッピーディスク	
ードライブのお手入れ	29
ーをセットする／取り出す	25
本体カバーを取り外す	36

ま行

マウス

ーコネクタ	85
ーのお手入れ	28
ーの使い方	18
マザーボード	15
メモリを取り付ける	37

わ行

ワークステーション本体

ー前面	10
ー内部	14
ーのお手入れ	28
ー背面	12

Memo

CELSIUS 330

ハードウェアガイド
B5FH-6031-01-01

発行日 2002年6月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。